

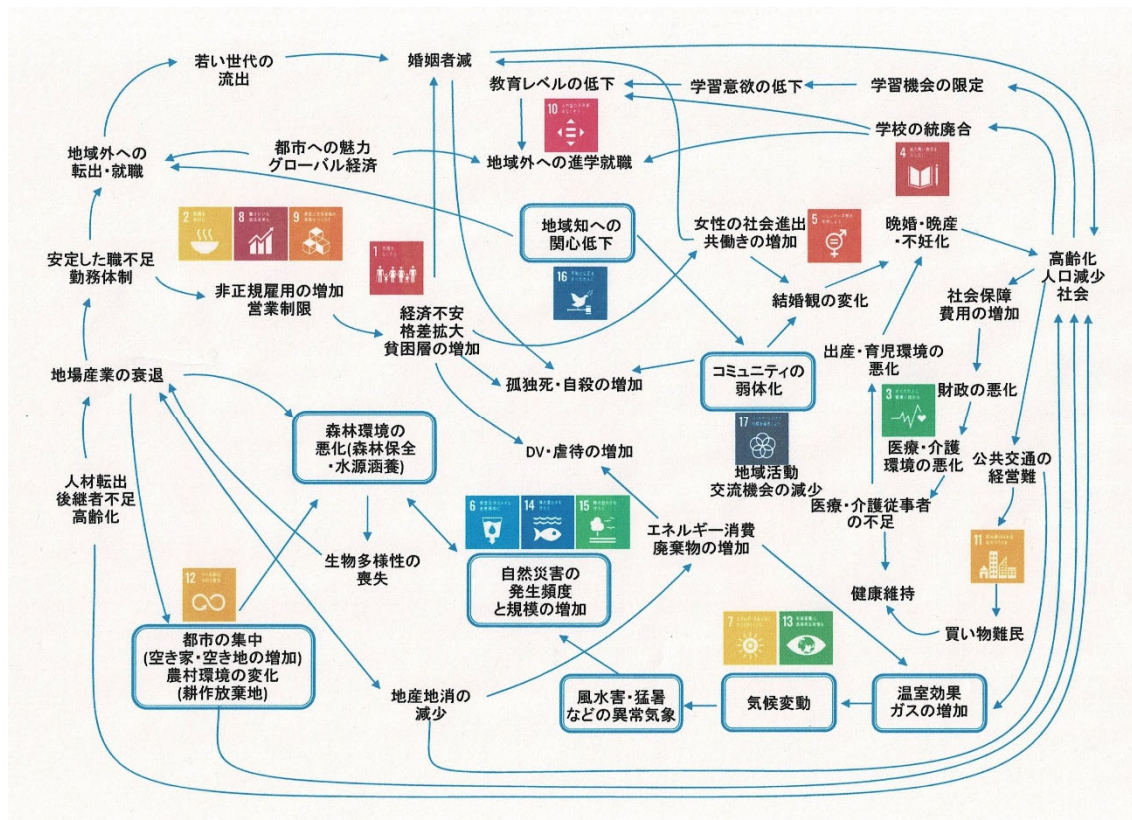
11. SDGs 中での防災

SDGs は持続可能な開発目標ということですが、より身近な表現にすると、市民、事業者、行政などがそれぞれの立場、目的や目標を有している中で、自分だけの主義主張、立場だけにこだわらずに、ともに明るい未来を構築するためにいまを見つめなおし、構想するという意識と行動をすべきであるという、いわば未来への設計ということになります。いま社会のシステムは一面では高度化することにより複雑化していて、このままいけば自然のシステムとも敵対化し、その反動をまともに受けてしまい、あらゆる面での格差、分断が生じ、延いては共倒れに進んでしまいます。わが国は災害列島といわれ、自然現象自体は制御できないために、毎年さまざまな自然災害が発生して損失、損壊、犠牲という損害が発生しています。その自然災害の元である自然現象は、さまざまな社会システムと関係しているので、被害を最小化するためにもあらゆる領域を超えての活動をしていく必要があります。そこで、この SDGs のツールを活用することが有効であると考えています。SDGs には 17 の目標と 169 のターゲットであり、これらを強力な武器にしなければなりません。この SDGs の特徴はあらゆる分野の実現のためのチェックリストを備えた世界の基準であり、あらゆる組織やセクターを超えての対話ができることにあります。

この SDGs の本質は、地球上にあるさまざまな課題は単独では存在せず、必ず底流でつながる同根であるということですので、相互の影響や作用を見据えつつ解決しないと解決した矢先から別の課題を生まれて、ますます複雑化することにもなりかねません。ここで、われわれに求められているのがその視点の広さだということにまず気づきます。

われわれは、自然災害に対しての防災として事前の備え、発生時の対応、発生後の復旧、復興、ケアといったことでさまざまな取り組みを行っています。もちろんそれぞれの専門領域で一所懸命に努力されていますが、どれだけ市民に浸透しているのかということになると少々自信がありません。研修会や講習会を一過性の行事になっていないか、参加した人から水平展開ができていないのか、災害があると残念ながら同じような状況が見せられるということを一様に感じているような気がします。災害発生も時間とともに風化していくことは当然だとしても、別な形での次世代への継承ができないのかが大きな課題となっていることは十分知りつつも、忸怩たる思いになることも多々あります。NHKのキャスターである国谷裕子氏はある対談で、語っていることが大きな教えになっているような気がします。それを以下に紹介すると、「これまでのやり方に固執したり、固定的な立場の中に閉じこもりがちで、新しい議論ができない。そんな「タコ壺」からの脱出を試みる際に、SDGs は役立つと思います。SDGs という共通の地図を見ながら、みんなで議論することで、旧来的な文脈から離れ、話し合いの幅を広げることができます。また、17 目標、

169のターゲットとたくさんのテーマがあるので、いろいろな人が議論に加わりやすく、外の人も迎え入れやすくなります。」と述べています。このSDGsの優れたところは、17の目標がさらに多くのターゲットで示されていることから、具体的に何をすればよいのかが示されているので、身近に感じることにアプローチできることです。関心を持ち続けることで、意識が高まって小さいながらも一人ひとりが行動を起こすことができます。



そこで、森林ということを事例的に考えてみます。日本列島は約7割が森林という森林大国です。それは地史的なことや東アジアに位置しているということが大きくかかわっているのですが、人類にとって森林は重要な資源になっています。もちろん、木材や林産物が生産されるということもありますが、大気中から炭素を吸収してくれる地球の偉大なシステムを機能させている大本になっているということです。つまり、森林環境を健全に維持継続することは、炭素を閉じ込める力の最大化が期待されるということです。また、森林は降雨や融雪といったものの受け皿になって涵養する機能もあります。この森林の機能をSDGs的な見方をすると、あらゆるところにかかわっていて、それこそ、風が吹けば桶屋が儲かるような展開を見せます。まさに森林は、持続可能な自然環境の指標にもなっているということになります。それだけでなく、実は人口減少、高齢化、地場産業の衰退、異常気象、温暖化、都市化などとも関係していて、地域が直面している課題ともかかわりがあって、包括的に取り組む必要があることがわかります。このように広く多様な目で見ると

とで、未来のビジョンを描くことができ、さまざまなチャレンジすることからの事業構
想も期待されるし、新たな地域づくりにも貢献できるという一連の流れができてきます。
地域の自然環境、これまでの地史、地域産業、自然災害、地球規模での気候変動がつなが
っていて、ループになっています。自然災害に対する防災にしても、ハード対策や避難施
設ができれば終わりではなく、それがどのように機能していくのか、本当に安全で安心
で、かつ循環と進化が継続する持続可能な地域づくりにつながるのかという視点が必要に
なるということで、これこそがSDGsが教えてくれているコミュニケーションツールであ
ると思います。

